



『一步一步進もう』

~Let's Move Forward Step by Step~
東京六本木ロータリークラブ会長

TOKYO ROPONGI ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2007年8月20日

No. 6

平成19年7月30日
卓話 『愛の分かち合い』
地区ガバナー補佐
グレイス西藤道子 様

皆様こんにちは、山の手東ガバナー補佐のグレイス西藤でございます。本日はRIの規定審議会においてトップに推奨されているポリオのことと、青少年プログラムのインターンシップ委員会についてご報告させていただきたいと思います。

今年度、規定審議会においてポリオの撲滅は国際ロータリーの最優先目標であると再確認されました。ロータリアンの中でさえ 99 %撲滅されたのならもう良いのではないかという声が聞かれますが、ポリオはウイルスによる重篤な疾患で、後遺症を生じ、流行すると多くの子供たちが死に至ります。最近オーストラリアではパキスタン人の留学生が休暇から帰ったあとポリオを発病しました。この男性は飛行機を使ったため、保健当局は搭乗者名簿をもとに必死に調査しております。いまや飛行機による伝染が大変怖いのです。

ロータリーは1979年にポリオ撲滅に立ち上がり、1985年にはポリオプラスプログラムを開始しました。ポリオは内乱のあるところ、僻地、貧困地域、宗教上の反対がある地域に残ります。今このポリオ撲滅事業は困難に直面していますが、ここで手を抜いたのでは数多くのロータリアン、ボランティアの労力、莫大な資金、全てが水泡に帰してしまいます。私たちは最後まで闘わなければなりません。救いは今までの努力が数々のプラスの遺産を遺していることです。即ち宗教指導者と共にロータリアン、ボランティアが各家庭を説得して回ったことが功を奏して国民自身が予防に目覚め、保健システムを定着させました。またワクチンの輸送システム保存のためのインフラが、鳥インフルエンザその他の病気にも応用されました。

スーダンでは長年の内戦により国が疲弊し、国民の多くは貧困、飢餓、病気で苦しんでいます。難民の間にポリオが発症し、同時にダルフール地方では約 7 千人の子供たちが武装勢力の戦闘員や運搬、使者などで働いています。この子どもたちに子ども時代を取り戻す機会が与えられなければなりません。子供たちに銃でなく優しい愛情を分かち合うため、皆様にも何とか尽くしていただきたいと思います。

次は国内のインターンシップ委員会です。高校生の職業意識を高めるため、都教委とロータリー 2750 地区は本年 1 月に基本協定を結びました。都教委によると都立高 205 校のうち 115 校が生徒の就業体験を実施してきましたが、受け入れ先の企業や事業所が中々みつからず、生徒の一部しか参加できないこともあったため、ロータリーに申し入れがございました。ロータリアンにとっても社会貢献ばかりでなく、強い責任感と倫理観を持つ新世代を育てることにつながると思います。参加希望校の中、山の手東に所属する高校は都立杉並総合高校と都立杉並工業高校、計 273 名。時期は来年の 3 月で、今年の 10 月中旬に受け入れ事業所の一覧を生徒に提示したいとのことです。昼食は持参、ハローワークの賠償保険で本人の事故、第三者への傷害や損失にも対応するということですので、ご協力をお願いしたいと存じます。

ご静聴ありがとうございました。

